

# 平成24年度の 決算と財政状況



決算は9月25日から開催の定例市議会で審議されています。  
平成24年度の決算と実施した施策、財政状況をお知らせします。  
▶問い合わせ 財政課(市庁舎5階、☎65・4106)

## 広報 おびひろ

Public Information OBIHIRO

平成25年(2013年) No.1073 October

発行: 帯広市  
編集: 政策推進部広報広聴課  
〒080-8670  
帯広市西5条南7丁目1番地  
電話(0155)24-4111  
FAX(0155)23-0151  
帯広市ホームページ  
http://www.city.obihira.hokkaido.jp/

### データで知る帯広

<b>8月末の人口と世帯数</b>	人口 / 169,031人 (前月比-13人) 男: 80,878人 女: 88,153人 世帯: 84,166世帯 (前月比+25世帯)
<b>8月の火災発生件数</b>	3件 (前月比±0件)
<b>8月の家庭ごみ排出量</b>	ごみ量 2,679t (前年同月比+77t) 資源ごみ(Sの日)量 641t (前年同月比-10t)

### 今月の紙面

市長と少子高齢化を話し合おう! 11

10月14日から8会場 で市民の皆さんと市長が、 意見交換します。	
■ 保育所(園)などの 4月入所の申し込み	8
■ 受けていますか? 乳がん・子宮がん検診	9
■ 秋を彩る おびひろ菊まつり	10

図1 一般会計の歳入・歳出

<b>歳入</b> 総額 810億240万円 (19億9759万円↓)	<b>歳出</b> 総額 804億4866万円 (19億3337万円↓)
差引き 5億5374万円	
<b>市税</b> 210億1948万円 市民や法人が納めた税金 (5億627万円↓)	<b>民生費</b> 288億5849万円 福祉や生活保護など (2億5471万円弁)
<b>地方交付税</b> 156億3355万円 国から交付されたお金 (2億835万円弁)	<b>公債費</b> 109億9710万円 借りたお金の返済金 (8億8342万円弁)
<b>国庫支出金</b> 128億7222万円 国から配分されたお金 (3億9049万円↓)	<b>商工費</b> 87億6345万円 商工業や産業、観光などの振興 (1億4169万円↓)
<b>諸収入</b> 111億754万円 貸したお金の元金利息や 給食費など (2786万円弁)	<b>教育費</b> 76億7317万円 学校教育や生涯学習 (17億5312万円↓)
<b>市債</b> 84億8328万円 長期的な借入金 (4億5340万円↓)	<b>土木費</b> 64億3268万円 道路や公園などの整備 (2億6925万円↓)
<b>道支出金</b> 42億1821万円 道から配分されたお金 (10億635万円↓)	<b>衛生費</b> 44億1052万円 予防接種やごみ処理など (1億5482万円弁)
<b>その他</b> 76億6812万円 施設の使用料や財産収入など (1億2271万円弁)	<b>総務費</b> 40億1538万円 庁舎管理や防災など(1893万円↓)
	<b>農林水産業費</b> 31億5306万円 農業振興や土地改良事業など (3億26万円↓)
	<b>その他</b> 61億4481万円 議会や消防など (7億4307万円↓)

※( )内は前年度比 ※歳出の各項目には、関係する職員の給与費を含めています。

### 一般会計は 5億円の黒字

平成24年度の一般会計の収支は決算額で、歳入が810億240万円、歳出が804億4866万円、差引額は5億5374万円になりました。(図1)

この差引額には、平成24年度中に事業が完了しなかったため、平成25年度に繰り越した事業の財源26888万円も含まれていて、これを除いた実質的な黒字額は5億2686万円でした。

### 一般会計の歳入の状況

平成23年度と比較して、地方交付税が約2億1千万円、豊成小学校跡地の売り払いなどで財産収入が約3億3千万円増加しました。

一方で、評価替えに伴う固定資産税の減少などで市税が約5億1千万円減少したほか、介護老人施設整備事業が終了したことや緊急雇用創出推進事業費の減少などで道支出金が約10億1千万円減少し、歳入全体では、約20億円の減少となりました。

平成23年度と比較して、生活保護費の増加や児童会館の耐震補強改修工事などで民生費が約2億5千万円、新エネルギー導入促進事業資金貸付金の増加などで衛生費が約1億5千万円増加しました。

一方で、豊成小学校移転改築の終了などで教育費が約17億5千万円、穀類等乾燥調製貯蔵施設整備の支援の終了などで農林水産業費が約3億円減少し、歳出全体で約19億3千万円の減少となりました。

表1 特別会計の決算

会計区分	歳入	歳出	実質収支
国民健康保険会計	185億4072万円	181億3881万円	4億191万円
後期高齢者医療会計	19億4205万円	18億6738万円	7467万円
介護保険会計	111億2570万円	110億6437万円	6133万円
中島霊園事業会計	2億8762万円	2億8762万円	0円
簡易水道事業会計	5086万円	5086万円	0円
農村下水道事業会計	1億1949万円	1億1949万円	0円
ばんえい競馬会計	109億9443万円	109億9443万円	0円
駐車場事業会計	9497万円	9497万円	0円
空港事業会計	6億7856万円	6億7856万円	0円

特別会計も黒字

市の会計には、一般会計のほか、国民健康保険会計や介護保険会計など9つの特別会計があります。特別会計は、利用者が負担する保険料や使用料などが主な財源で、収入と支出の関係を明確にするため、一般会計と区別して経理を行っています。

いずれの特別会計も、赤字にはなりません。また、赤字にはなりません。また、赤字にはなりません。

このほかに、独立採算で経理を行っている水道事業会計と下水道事業会計の2つの企業会計があります。企業会計の平成24年度決算は、6、7頁でお知らせします。

平成24年度に新たに実施した主な施策

皆さんが納めた税金をもとに、住みやすい帯広を目指して実施した事業を、第六期帯広市総合計画の体系に基づき一部を紹介します。 「安全に暮らせるまち」を

- ▽屋内プール3カ所に災害用過装置を整備
- ▽防犯灯省エネルギー化に対する支援の拡充
- ▽消防署鉄南出張の統合による出張所の増築
- ▽消防署大正出張所の耐震補強に向けた実施設計



森の里出張所に配備されました

▽消防団川西第3分団詰所の改築に向けた実施設計

「健康でやすらぐまち」を

▽物事を判断する能力が十分ではない人の権利擁護のため、成年後見推進員の配置

▽障害者への相談体制充実のため、基幹相談支援センターの設置

▽バス無料乗車証の交付による、高齢者おでかけサポートバス事業の開始

▽特別養護老人ホームの建設に対する支援

▽夜間急病センターの改築に向けた基本・実施設計

▽公立保育所の耐震補強



新しくなった栄児童保育センター

▽へき地保育所の耐震診断と実施

▽入所児童数の増加に対応するため、児童保育センター1分室の整備

▽発達相談室の設置

▽児童会館の耐震補強

▽森林の適正管理促進のため、私有林の保育事業の支援

▽第二期帯広市中心市街地活性化基本計画の策定

▽フードパントリーとかちフェスティバルの開催

▽旧北洋帯広ビル跡地での高層複合ビル整備に対する支援

▽帯広畜産大学と共同で、地域の発展を担う人材の育成事業の実施

▽首都圏で十勝・帯広のイメージアップキャンペーンを展開

▽自然と共生するまちを



指定されたヌツク川源流部河畔群1

▽家庭での省エネ促進のため、市民提案型の事業の支援

▽自然環境保全地区の指定

▽小中学校校舎の耐震化

▽小中学校の職員玄関にカメラ付きインターホンの設置

▽学校給食共同調理場への食品放射線測定機器の導入

▽武道必修化に対応するため中学

▽測定結果はホームページなどで公開しています

▽市営住宅（大空団地3街区・光5）の建設



地域で使える商品券を交付しました

▽市営住宅（大空団地3街区・光5）の建設

▽啓西小学校屋内プールの建設

▽生誕にわたる学びのまちを

▽啓西小学校屋内プールの建設

▽市営住宅（大空団地3街区・光5）の建設

▽朝陽市人民代表大会訪問団の受け入れ

▽自立と協働のまちを

▽十勝管内全町村と合同で職員研修の実施

▽帯広市開拓130年・市制施行80年の記念事業の実施

▽市ホームページのリニューアルとフェイスブック、ツイッターの活用

▽市ホームページのリニューアルとフェイスブック、ツイッターの活用



市民憲章を元気に朗唱しました

▽朝陽市人民代表大会訪問団の受け入れ

▽自立と協働のまちを



阿波おどりに参加して帯広をアピールしました

▽啓親福祉センターの駐車場整備

▽徳島市へ姉妹都市締結30周年記念訪問団の派遣

▽校に教材・教具の整備

▽帯広の森陸上競技場の改修

▽2012フードパントリーとかちマラソン大会の開催

▽新学校給食調理場の整備に向けた基本・実施設計

▽移動図書館バスの更新

▽思いやりとふれあいのまちを

表2 健全化判断比率と推移

指標	内容	家計簿に例えると	帯広市 (平成24年度)	危険水準 財政破綻	
				早期健全化 基準※2	財政 再生基準
実質 赤字比率	普通会計の赤字額が、市の標準的な収入に対して占める割合	年間の赤字額の合計が年収の合計に占める割合	赤字なし	11.46%	20.00%
連結実質 赤字比率	普通会計のほか、特別会計や企業会計も含めた赤字額が、市の標準的な収入に対して占める割合	自分の世帯のほか、親や子どもの世帯を合わせた赤字額の合計が、年収の合計に占める割合	赤字なし	16.46%	30.00%
実質 公債費比率 (過去3カ年平均)	一般会計などが負担する長期の借入金の返済や、それに準ずる支出が、市の標準的な収入に対して占める割合	住宅ローンなどの返済額の合計が年収に占める割合	10.4%	25.0%	35.0%
将来 負担比率	一般会計などが抱える負債の残高が、市の標準的な収入に対して示す割合	住宅ローンなどの借入金の残高が、現在の年収の何%になるかを示す割合	109.4%	350.0%	—

## 帯広市の財政状況

各自治体の財政状況を判断する資料として、健全化判断比率と財務諸表があります。

### 健全化判断比率が示す財政の健全さ

普通会計(※1)による財政状況だけではなく、自治体全体の財政状況を明らかにするため、財政健全化法により4つの指標の公表が義務付けられています。(表2)

市の平成24年度の財政状況はいずれも早期健全化基準(※2)を下回っています。

### 企業会計の視点で見ると

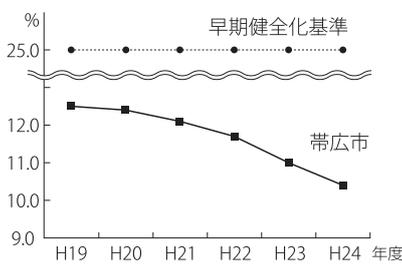
市では、現金主義による指標だけでなく、企業会計的な発生主義や複式簿記の考え方に基いた「貸借対照表」、「行政コスト計算書」、「純資産変動計算書」、「資金収支計算書」の4つの財務諸表を一年遅れで作成しています。

財務諸表では、公正な評価による資産や負債の蓄積状況のほか、減価償却費など、実際に現金の支出を伴わない隠れたコストも把握

り組まなければなりません。企業会計の視点で見ると、市では、現金主義による指標だけでなく、企業会計的な発生主義や複式簿記の考え方に基いた「貸借対照表」、「行政コスト計算書」、「純資産変動計算書」、「資金収支計算書」の4つの財務諸表を一年遅れで作成しています。

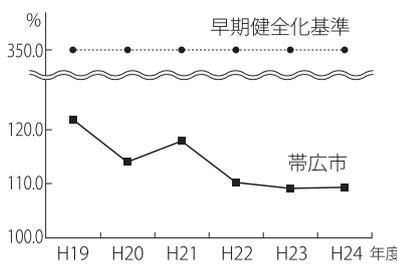
財務諸表では、公正な評価による資産や負債の蓄積状況のほか、減価償却費など、実際に現金の支出を伴わない隠れたコストも把握

実質公債費比率の推移



早期健全化基準 25.0%

将来負担比率の推移



早期健全化基準 350.0%

## これからの帯広市の財政

帯広市の財政は、健全化判断比率の推移や資産に占める純資産の割合などから見て、健全な状況を維持しています。

しかし、市税などの自主財源が伸び悩む一方、歳出では、高齢化の進展などに伴い、社会保障に掛かる費用などが増加を続けているほか、多くの公共施設で老朽化対策に財政負担が生じる見込みであるため、今後の財政見直しは決して楽観できません。

限られた財源のなかで、事業の選択と集中や重点化を図りながら、元氣な帯広の実現に向け、「フードバレーとかち」をはじめとする各種施策に取り組みしていきます。

### 貸借対照表から見る財政状況

4つの財務諸表のうち、バランスシートと呼ばれる貸借対照表を見ると、市が所有している施設などの資産価値やこれから返済しなければならない地方債などの負債がどのくらいあるのかが分かります。(表3)

帯広市の資産は前年度と比較して約17億円減少していますが、このほとんどが経年による資産価値の目減り分になります。

また、市民1人当たりに換算すると、資産は約225万円、負債は約66万円、純資産は約159万円となります。

他の財務諸表は、市のホームページなどでも公表しますので、ぜひご覧ください。

表3 平成23年度帯広市普通会計財務諸表

貸借対照表(バランスシート)…市が所有している施設などの資産価値やこれから返済しなければならない地方債などの負債、すでに返済を終えた純資産がどの程度あるか表したものの

	資産の部 (年度末に所有している資産の価値)			負債の部 (これから返済していく金額)				
	平成23年度	平成22年度	増△減	平成23年度	平成22年度	増△減		
金融資産	(1) 資金	6億1797万円	10億6446万円	△4億4649万円	(1) 賞与引当金	5億3370万円	5億4765万円	△1395万円
	(2) 債権 未収金、貸付金など	27億2358万円	28億3328万円	△1億970万円	(2) 地方債(短期)など 翌年度償還予定地方債など	92億3788万円	82億3948万円	9億9840万円
	(3) 有価証券	2億8023万円	2億8023万円	0円	(1) 地方債 翌々年度以降償還予定地方債	881億7152万円	885億9561万円	△4億2409万円
	(4) 投資など 出資金、基金、積立金など	167億1700万円	162億6846万円	4億4854万円	(2) 借入金	2億3531万円	3億3951万円	△1億420万円
非金融資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、 体育施設、市営住宅など	1410億9327万円	1410億3651万円	5676万円	(3) 引当金 退職手当引当金など	126億4537万円	133億2203万円	△6億7666万円
	(2) インフラ資産 道路、公園など	2169億3266万円	2185億4858万円	△16億1592万円	<b>負債合計</b>	<b>1108億2378万円</b>	<b>1110億4428万円</b>	<b>△2億2050万円</b>
<b>資産合計</b>	<b>3783億6471万円</b>	<b>3800億3152万円</b>	<b>△16億6681万円</b>	純資産の部 (これまで返済を終えた金額)				
					平成23年度	平成22年度	増△減	
				<b>純資産合計</b>	<b>2675億4093万円</b>	<b>2689億8724万円</b>	<b>△14億4631万円</b>	
				<b>負債・純資産合計</b>	<b>3783億6471万円</b>	<b>3800億3152万円</b>	<b>△16億6681万円</b>	

市民1人当たり換算 (各年度末の住民基本台帳人口で換算/年度末人口 平成23年度 16万8188人、平成22年度 16万8464人)

	資産の部			負債の部			
	平成23年度	平成22年度	増△減	平成23年度	平成22年度	増△減	
現金(資金)	3674円	6319円	△2645円	ローンのうち翌年度返済予定額(流動負債)	5万8099円	5万2160円	5939円
買ったままになっているお金(債権)	1万6194円	1万6818円	△624円	ローンのうち翌々年度以降返済予定額(非流動負債)	60万829円	60万6997円	△1618円
お米券などの商品券(有価証券)	1666円	1664円	2円	<b>負債合計</b>	<b>65万8928円</b>	<b>65万9157円</b>	<b>△229円</b>
定期預金(投資など)	9万9395円	9万6569円	2826円	純資産の部			
家や土地、自動車(非金融資産)	212万8724円	213万4492円	△5768円		平成23年度	平成22年度	増△減
<b>資産合計</b>	<b>224万9653円</b>	<b>225万5862円</b>	<b>△6209円</b>	ローンの返済が終わっている資産(純資産)	159万725円	159万6705円	△5980円
				<b>負債・純資産合計</b>	<b>224万9653円</b>	<b>225万5862円</b>	<b>△6209円</b>

全国健康保険協会からのお知らせ 生活習慣病の予防や早期発見のため、年に一度は「生活習慣病予防健診」や「特定健診」を受けましょう。また、薬代の負担軽減のためジェネリック医薬品を活用しましょう。詳しくは問い合わせください。 問全国健康保険協会北海道支部 (☎011・726・0352)